

一般社団法人  
**全国高等学校PTA連合会** **会報**  
 No.78

一般社団法人全国高等学校PTA連合会  
 (連絡先) 〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町2-1 (奥田ビル) TEL03-5835-5711 FAX03-5835-5757  
 発行人 相川順子 URL <http://www.zenkoupren.org/> eメール [info@zenkoupren.org](mailto:info@zenkoupren.org)



# 未来へ! 踏み出せ新たな1歩

**あ** の日から3年。東日本大震災直後に高校生活をスタートさせた生徒たちが卒業の時を迎えた。生徒たちは、未曾有の大震災の影響を直接、間接的に受けながら3年間の高校生活を過ごしてきた。中でも東北地方沿岸部の高校は直接的に、あまりにも大きな被害を受けている。校舎が壊滅したり原発事故の影響を受けたりして、3年間一度も本校舎で授業を受けることなく卒業していく生徒も多い。

宮城県気仙沼市の気仙沼向洋高校もその一つ。前身が気仙沼水産高校の同校は海岸から500メートルの距離にあった。10メートル近くにもなった津波は、4階建ての校舎の4階部分にも達し、校舎、実習施設を含め全ての教育施設が流出した。

入学したばかりの生徒は、近隣の3つの学校に分かれて高校生活が始まった。1年生の11月にプレハブの仮設校舎が完成し、生徒は一つになるが、不自由な環境の中の学校生活は変わらなかった。それでも、生徒たちは明るく高校生活を謳歌してきた。

本来、本校の体育館で行うべき卒業式は気仙沼市総合体育館で行われた。卒業証書を手にした118人。先輩の誰も経験したことのない困難を乗り越えてきた卒業生は、しっかりと前を向き、それぞれの未来へ新たな一歩を踏み出した。(10頁に関連ルポ)

**今号の主な内容**

- 第2回全国会長・事務局長研修会報告 2頁
- 講演「第6回高校生と保護者の進路意識調査結果報告」 3頁
- 講演「教育再生実行会議の動向」 4頁
- 講演「文部科学行政について」 5頁
- 講演「大人が出来ることは何か」 6～7頁
- 各委員会報告 8頁



- 全国高等学校PTA連合会賠償責任補償制度のお知らせ 9頁
- 被災地の高校ルポ 10頁
- シリーズ視点 世界に羽ばたけ! 輝く高校生! 11頁
- 第64回全国大会福井大会のご案内 12頁

# 第2回全国会長・事務局長研修会報告

去る2月8日(土)9日(日)において報告された事項を抜粋で紹介いたします。

## 理事事会報告

平成26年度

### 全国高P連活動方針

本連合会は25年度から加盟費の引上げにより財務基盤が安定し、自主事業を柱とする活動の充実が一層期待されることとなった。そこで平成26年度は以下の基本目標および事業方針を掲げる。

- 1 青少年の健全育成に関する調査研究と啓発活動。
- 2 青少年のキャリア形成および生涯学習に資する調査研究と啓発活動。
- 3 広報紙およびホームページ活用による広報。
- 4 PTA活動の充実に資する研究大会、講演会、研修会の開催。
- 5 賠償責任補償制度の運営と拡充。
- 6 社会環境、教育環境の整備ならびに家庭の健全化を図る活動。
- 7 顕著な業績をあげたPTAその他の団体お

### よび個人の顕彰。

- 8 東日本大震災被災地の高校生及びPTAの活動支援。
- 9 その他

右の方針に基づき、具体的な事業として、例年のものに加えて、次の新規事業を展開する。

- ① 全国大会メイン会場にて「高校生と保護者の進路意識調査」に基づく研究発表を行う。
- ② 薬物乱用防止パンフレットを活用した研修会等を地区単位、都道府県市単位で実施する。
- ③ インターネットリテラシー向上のための調査研究、啓発、研修活動を行う。
- ④ 東日本大震災被災地の高校生及びPTAの実情調査を行い、必要な支援の方向性を探る。

### ⑤賠償責任補償制度の啓発普及と自転車事故防止のためのPR媒体(DVD等)を制作し配布する。

地区大会日程  
26年度の各地区大会の開催予定は以下の通り。

- ・北海道地区 6月14日(金)15日(土) 小樽市
- ・東北地区 7月4日(金)5日(土) 大館市
- ・関東地区 7月4日(金)5日(土) 前橋市
- ・東京地区 7月12日(土) 渋谷区
- ・北信越地区 7月3日(木)4日(金) 長野市
- ・東海地区 6月20日(金) 名古屋
- ・近畿地区 7月5日(土)6日(日) 奈良市
- ・中国四国地区

7月11日(金)

高知市

九州地区

6月19日(木)20日(金)

鹿児島市

## 賠償責任補償制度

### 幹事会社報告

- ・加入率が49.6%に上昇。
- ・事故発生状況では、支払金額比率の過去累計で100%を超えているが、今年度は12月現在で、31.87%と低い水準。高額支払案件でも640万円の1件のみ。

事故防止の取組みの成果であれば嬉しい。  
・事故事例では今年1月千葉県の女子高生が起こした80歳女性の死亡事故がある。生徒の在籍校は制度に加入していなかったが、家族が自転車保険に入っていた。  
・学生総合補償制度などの加入は1/2割程度と推定される。残り8/9割は別の保険に入っていないければ無保険状態となる。  
・また、1月の東京地裁の判例では4746万円の高額支払い命令がでた。

最近、歩道上など歩行者が保護されている状況下での事故の判例では、自転車の加害責任を自動車同様に重く見る傾向が強まっている。

## 第65回全国大会

岩手大会について

(準備委員会より)

平成27年8月19日、水木金の日程で盛岡市にて。主会場・副会場は岩手産業文化センター(アピオ)と盛岡市アイスパリーナを予定。その他の分科会場は盛岡駅周辺に配置するよう計画

## 全国大会福井大会

### 実行委員会報告

- 1 開会式会場について(再確認)、フェニックスプラザ、敦賀市民文化センターで行われる分科会の参加者は開会式もその会場とする。その他の分科会場の参加者はサンドーム福井とする。
- 2 参加申し込みについて、WEBとFAXの2通りあるが経費・事務処理の手間などからできるだけWEB方をお願いしたい。
- 3 講演の講師として基調講演は教育評論家の尾木直樹氏、記念講演は恐竜博物館特別館長の東洋一氏に決定した。
- 4 WEB申し込みの方

### 総務省より

総務省・文科学省など8省庁あわせて「春の安心ネット・新学期一斉行動」を展開する旨の周知と本会への取組み要請があった。

### 安心ネットづくり

### 促進協議会より

広報・研究担当部長の山崎陽平氏よりILASテストの協力御礼とテストの分析概要について報告があった。

研修会で行われた4つの講演の概要を次頁以降で紹介しています。

# 第6回進路意識調査結果報告(要旨抜粋)

(株)リクルートマーケティングパートナーズ  
「キャリアガイダンス」編集長

山下真司氏

## 1 親子コミュニケーションの実態

☆保護者の89%が「進路について会話している」と答え、特に「母と娘」の会話が活発。☆高校生が保護者と話している内容の頻度上位は「具体的進路」「将来の職業」「夢」「成績」。☆保護者が「よく使う言葉」は「自分の好きなことをしなさい。」で親子とも一致している。☆その他の言葉では、例えば、子どもは「勉強しなさい」とよく言われているが、保護者の方にはその覚えはあまりないという認識ギャップもある。

☆進路について相談する相手は圧倒的に「母親」で高校生の83%が相談している。父親に相談するのが41%。

☆高校生の66%が保護者のアドバイスを求めており、これは前回より6%増えている。

## 2 進路にまつわる期待と不安

☆7割の高校生が「不安」を感じている。気がかりなこと1位は「学力」、2位「自分に合っているものが分からない」、3位「やりたいことが見つからない」。

☆「将来働くことへの気がかり」は高校生も保護者も7割が「ある」。その内容はともに「就きたい職業に就けるだろうか」、ついで高校生は「収入」「職場の人間関係」をあげ、保護者も「職場の人間関係」を気にしている。

☆これからの社会は「好ましい」とみる高校生が増えたが、約半数は「好ましくない」とみている。保護者も「好ましい」が増えたが「好ましくない」が6割を超え、不安視する意見が大勢を占めた。

☆「将来就きたい職業」就かせたい職業」は親子ともに「公務員」、高校



生はついでで看護師(女子2位、男子3位)、教師(男子2位、女子3位)。

## 3 保護者の動きと高校・教員への要望

☆高校の進路指導への要望は親子とも「進路情報提供」で、保護者は自身で「体験」「行動」する機会を要望する声が多い。

☆保護者は「アドバイス」から保護者自身が「行動する」傾向が強まっている。その理由としては「子どもと一緒に考えたいから」が70%。

☆高校生は親の干渉具合を6割が「ちょうどいい」と見ているが、「干渉する」が25%以上あり、前回の21%より増加している。少し過干渉な保護者が増えているようだ。

## 4 グローバル化の影響

☆親子共に半数が「グローバル化の影響がある」と答えている。

☆高校生の半数以上が、「通用する人材になりたい」。しかし保護者では「なあってほしい」が39%。

☆進路希望別に集計してみると、大学進学希望者の保護者では「是非なあってほしい」が増える。

☆グローバル人材に必要な能力は高校生・保護者ともに第一が「語学力」と第二が「コミュニケーション能力」となっているが、実際に「語学力を持つている」という高校生は7%。

☆「子どもを留学させた」と保護者は約2割。「させたいと思わない」が約4割。その理由では治安を心配する声も多い。

## 5 今回の調査を通じて(まとめ)

①進路にまつわる親子コミュニケーションは、おおむね良好であった。色々な悩みや希望進路を共有する親子関係になってきたようで素晴らしい。

- ②アドバイスを求める高校生とそれに応えたいと親身に相談に乗る保護者の姿勢が見られる。
  - ③一方で子どもより先回りして「出しゃばりすぎる」保護者がみられるのも危惧されるポイント。
  - ④社会の景況感とは裏腹に、就職に関して親子の不安感がまだ払拭されていない。
  - ⑤子どもの「自立支援」に向けてどのように家庭で教育していくのか、また高校現場での教育に結び付けていくのか模索していく必要がある。
  - ⑥保護者を支援するキャリア教育が重要：保護者自身が情報をたくさん仕入れるというより、むしろ保護者が投げかけをして高校生が気づいて行動していくようにすることが大切。
- 最後に保護者のありたいスタンスとして：子どもが知っている世界は小さく狭い。だからできるだけ世界を広げてあげること。特に高校生が自分気づいていないが他人から見られている自己に気づかせることが大切ではないか。(2月8日)

調査結果に関する詳細な報告は全国高P連のホームページに掲載しています。

また加盟各校PTA会長宛てにも各1冊配布してあります。

一般社団法人全国高等学校PTA連合会  
株式会社リクルートマーケティングパートナーズ 合同調査  
第6回 高校生と保護者の進路に関する意識調査

調査対象：全国高校2年生とその保護者(9都道府県高校3校・総計27校)  
調査時期：平成25年9月24日～10月31日  
回答総数：高校生 2,043人、保護者 1,696人

# 教育再生実行会議の動向(要旨抜粋)

教育再生実行会議座長・早稲田大学総長 鎌田 薫氏

(2月8日、文部科学省の教育再生実行アドバイザーとして、多くのスライドを用いて一時間にわたりご講話下さいました。)

## I 教育再生実行会議について(省略)

## II 教育再生実行会議のこれまでの提言とそれを受けた取組み

第一次提言の「いじめの問題等への対応について」を受けて体罰禁止に関する通知を発出し、「運動部活動での指導のガイドライン」を策定し、「いじめ防止対策推進法」の成立をみました。

第二次提言「教育委員会制度の在り方について」を受けて、12月に中教審答申「今後の地方教育行政の在り方について」が取りまとめられ、通常国会への法案提出に向けて準備が進められています。

## III 第三次提言(これからの大学教育の在り方)

まず、この問題の前提として、少子高齢化の問題があります。今年の成人は120万人しかいません。この少ない人数で国をどうやって維持していくかが問題です。

一方で大学生の数は減っていますが、大学進学率はOECD諸国に比べて高いといえます。また、大学ランキングも低下する一方だが、海外への留学生も減少しているとか国際的なステータスの低下が教育の世界でも起きています。企業の海外派遣も減少しており経済界の危機感も強くなっています。

こうした現状を踏まえて、具体的な目標として5つの柱を立てています。第1の課題は、グローバル化に対応した教育環境づくりを進めること。なかでも初等中等教育段階からグローバル化に対応した教育の充実を図る

ことが大切です。英語教育の改善だけでなく、互いに異なる文化的背景を持つ人々の相互理解を進めていく人材、幅広い教養に立って自分で考える人材の育成が大切です。第2の課題は社会を牽引するイノベーション創出のための教育・研究環境づくり。



第3は学生を鍛え上げ、社会に送り出す教育機能の強化。日本の学生が勉強しない、自分の頭で考えないという問題があります。いかに自分の頭で考えさせるか、いかにして社会性や強靱な精神力を身に付けさせるかという問題意識があります。小中高

校そして大学を出てからもその力を発展させていけるような社会の体制を作り、主体的に学ぶ力、学ぶ姿勢を大学入学前につくらなければなりません。第4は大学等における

社会人の学び直し機能の強化。日本の企業は従来のように就職してから企業内で育てる余裕がなくなってきたし、より高度でより深い専門的な能力が必要になってくるとそれだけでは足りなくなってきました。いったん社会に出てからもう一度自分の能力を高め専門の幅を広げるためには大学がこういうニーズに応えられるようにしたいと思います。

そしてこれらの実現のために、大学のガバナンス改革、財政基盤の確立が必要であり、これが第5の柱です。ちなみに高等教育に対する公財政支出がOECD諸国で最下位という現状があります。対GDP比ではOECD平均の半分にすぎません。これを改善していくことが重要です。

いまや韓国の大学に対する国際的な評価が高まっていますが、公財政

支出の伸び率が韓国や中国は日本よりはるかに高くなっています。

## IV 第四次提言(高等教育と大学教育との接続・大学入学者選抜の在り方について)

今、大学進学率はほとんど上がっています。しかし、高校生、特に中間層の学習時間が減少しつつあるという深刻な問題があります。この現状を踏まえて、人材の質を飛躍的に高めていかなければなりません。そのためには高校の教育の質を向上させること。そして大学の人材育成機能を強化させること。そして両者をよりよく接続させる大学入試にするということ。この三位一体の改革を提案しました。しかし、入試改革は中学にまで影響を及ぼすので、実行に移すためには何年も前からその内容を提示してそれに向かつて生徒がじっくり準備していくというものが私たちの基本姿勢です。

この改革を通じて、高校生全体が最低限共通で身に付けるべき水準をしっかりと維持すること、

進路に依じて専念できる体制を作っていくことが大切です。そして社会性の涵養も大切なので、それらを切り捨てて受験勉強に専念するというのは違う高校教育を作ろうということ。提言しました。そのために、大学入試とは違って、高校生の学習の達成標準を検証できるような試験として達成度テストを導入し、それをやることによって高校や生徒一人ひとりが自分の弱点を知り、教育や学習の改善を図るようにします。また大学の入学試験ではペーパーテストだけでは測れないような能力をもっと正当に評価しようということ。そのような方向に向けた提言をしました。このような入試改革に応じて大学の人材育成機能を強化していくことも求めています。という事です。

## V 学制の在り方について

現在633制の見直しを検討していますが、これはまだ方向性が出たわけではありません。今後の審議にご注目いただければと思います。

# 文部科学行政について (要旨抜粋)

文部科学省スポーツ・青少年局競技スポーツ課長 坪田 知広氏  
(前・生涯学習政策局社会教育課長)

高P連の皆様とともに保護者の代弁者として教育行政を担っていくぞと思いつながら、10か月足らずで競技スポーツ課長に異動となりました。本日で最後ということではありませんが、一つの区切りとしてお話しさせていただきますと思います。

実施する場合は、これは誰がやってもよいわけですから。これに関する補助金として全国の小中高等で約5000校分13億円を用意してあります。キャリア教育的なものを想定してありますが、学習塾・予備校と組んで受験指導することも可能になります。柔軟な形でこの予算を使っていたかどうかということですが、

は8年連続で1位になったという例です。

このように土曜日の活動を広げるに当たっては、学校や教育委員会が必要とする人材がすぐ派遣してもらえない仕組みを作っていたら、と願っています。大学生や地元の人材を組織して応援団にしていこうということですが、

1 土曜授業について  
これまで土曜日の正規の授業は「特別の必要がある場合」以外では認められていませんでした。来年度からはこの「特別の」という重い言葉が取れて、気軽に取組めるようになりまし。これをやる決断を促すのがまさに保護者の方々、PTAの方々であつて、学校評議会などを通じて要望していただく中で学校も動いていくだろうと思います。

模範例として、豊後高田市の「学びの21世紀塾」という例があります。これは5日制になった時から土曜日の学習を教育委員会と地域の力で支え続け、県内学力テストでワースト2位から、今で



3 いじめ・暴力行為等の問題への取組みの強化  
この問題にしっかりと向

2 道徳教育  
高校では正式な教科となるかわかりませんが、規範意識や社会のルール・マナーを学ぶ「公共」というような新教科を設ける話もあります。また、2020年に向けた英語教育の強化ということもあつて指導要領の改訂にもなつていきますので注目しておく必要があると思います。

4 キャリア教育・職業教育(省略)。  
き合うために教育委員会制度の見直し教育再生実行会議で議論され、中教審でも答申がだされ、今与党内でもまれているという状況です。一方、学校と教育委員会が対応にばらつきが大きいので、議員立法で「いじめ対策推進法」が出来ました。法律では、都道府県で「いじめ問題対策連絡協議会」を置くことと基本方針を立てること、学校でも対策を立てることとなつていますが、これこそ、PTAの方からうちの学校はどうなつていのかと学校へ働きかけていただければと思います。

(2月8日)

学校長・進路指導ご担当の先生へ

ひとりひとりの適性にあった進路指導を高校生新聞がお手伝いします。

## 出張講義 のご案内

**無料**  
一切の費用は  
いただきません

すべての学問分野から選べます。  
全国の大学にネットワークを持つ高校生新聞ならではのコーディネート。理工学系の講義では大学の研究施設等を利用して実験を行うことも可能です。貴校の進路指導にぜひお役に立ててください。

文学	工学	法学	体育学	理学	宗教学	教育学	メデア学	史学	心理学	経済学	医療	
商学	哲学	農学	文化学	観光	芸術	政治学	語学	家政学	経営学	地理学	保健	社会学

※詳細についてはお問い合わせ下さい。



▼ ホームページでも高校生のニュースを発信!

高校生新聞  検索

SP スクールパートナーズ 高校生新聞社 TEL.042-724-2750  
http://www.koukouseishinbun.jp/ FAX.042-724-2710

本社:〒194-0022 東京都町田市森野1-34-10  
西日本支社:〒552-0013 大阪府大阪市港区福崎3-1-148  
北海道支社:〒060-0004 北海道札幌市中央区北4条西5-1

平成25年度 全国高校生 生活意識調査結果から

# 大人が出来ることは何か (要旨抜粋)

京都大学大学院医学研究科准教授 木原雅子氏



## I 国際比較から

### 1 高校・授業に対する意識と先生の態度について：(図1)

・高校で学んだことの重要性について「とても大切だと思う」が日本は約25%、米国は50%で、米国に比べ日本の方が高校で学んだ事に対する重要性の認識が顕著に低い。

・高校の授業に対する関心は、日本は「とても興味があった」が約7%で、米国の26%に比べて著しく低い。

・頑張っている生徒に対する先生の態度として、「いつも気づいてくれた」が日本では約7%、米国で34%。文

### 2 高校卒業の見込み／信頼できる大人／目標への意欲／問題対処力について：これらの自尊心に関する項目でもすべて米国より低い。

### 3 人との繋がりについて：タイの女子高校生と比べて、日本の男女ともに「友だち」との繋がりで差はないが、「先生」「母親」「父親」とのつながりはすべてタイより低い。

### 4 子どもへの保護者の関与について：(図2)

・「宿題実施の確認」では日本2%・米国52%

・「宿題の手伝い」では日本7%・米国59%

・「テレビ視聴制限」では日本3%・米国12%

・「夜間外出制限」では日本20%・米国42%

・「子どもの努力への認識」は日本33%・米国

図1

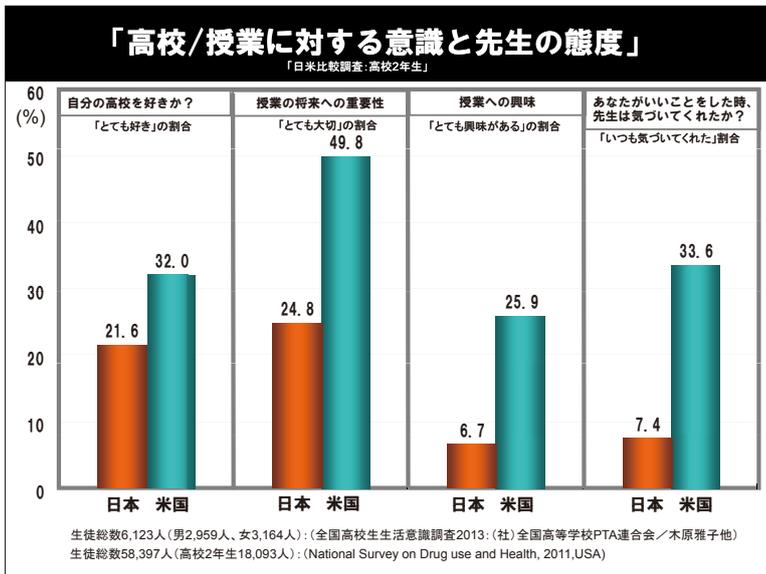
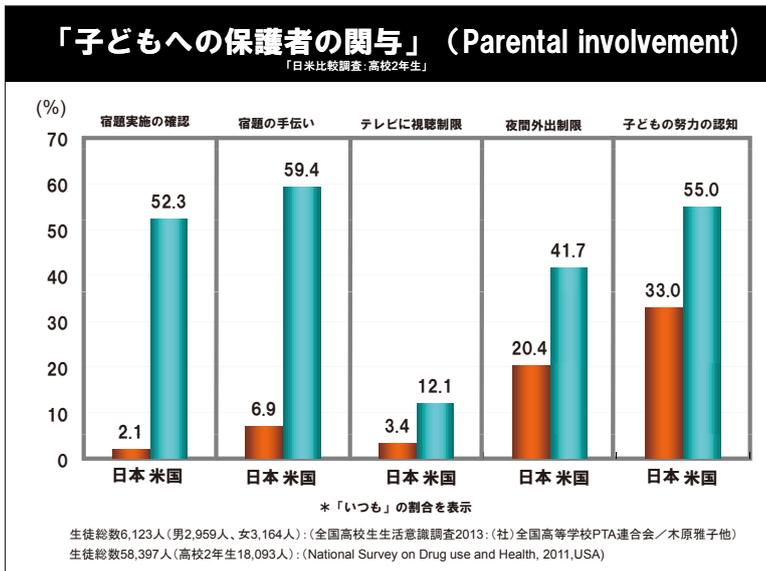


図2



化の違いもあるが、米国に比べ日本の方が先生の生徒の頑張りへの関心が顕著に低い。

2 高校卒業の見込み／信頼できる大人／目標への意欲／問題対処力について：これらの自尊心に関する項目でもすべて米国より低い。

55%、となっており、いずれも米国より低い。

II 日本の高校生の現状

5 高校生のリスク行動の実態：この中には「いじめ」は加害も被害も前回調査より増えている。また、実際の数はもつと多いと思わ

6 マスク着用の割合：最近マスク着用の高校生が多く見受けられるが、海外からは不思議な現象として報道されている。病気や予防以外で年中着用すると回答したのが男子13%、

7 家庭学習時間：1時間以下と0時間を合わせると男女とも75%になり、中央値では、男子は30分、女子は40分となっている。これは前回調査とは変わらない

8 ゲーム実施時間は男子平均69分、中央値45分。女子平均21分、中央値0分。テレビ視聴時間は男子平均1.5時間、中央値1時間。女子平均1.9時間、中央値2時間。男子はゲーム、女子はテレビにはまりやすい傾向が出ている。

女子34%。理由は、顔を隠して落ち着きたいという生徒が多く、本来相手の表情から気持ちを読み取るという円滑なコミュニケーションの基本を拒む傾向がみられる。

9 いが、あまりにも日本の高校生は勉強していない。

Ⅲ 高校生のネット使用状況

9 スマホ所持状況：男女ともほぼ9割。前回は3%だったから、2年間でこれほど変化した。スマホの使用時間は男子が29時間。女子が39時間。

10 IT機器に対する保護者の態度：フィルタリングとか時間制限とか機器使用に対するルールを何も設けていないのが51%。使用状況に対して注意するのは約6割で、残り4割はほとんど、あるいは全く注意しない。いわば野放し状態の保護者が多い。

Ⅳ ネット依存に関係するもの

11 医学的診断の指標10項目に基づいて適応的使用群・不適応使用群・病的な使用群に分類すると、男子の8%、女子の14%が病的な使用状態で、これは医学的サポートがないとやめられない状態。不適応使用群を含めると男子の25%・女子の35%がネット依存の状態。子

どもは大人に比べて習慣性につきやすく早く依存になりやすいので、早目に大人が対応することが大切。(図3)

12 スマホ使用の理由は「とにかく便利で楽しい」とスマホの機能を堪能している様子が分かる。一方、スマホによる生活の変化も色々だが、睡眠時間が減った、勉強時間が減ったというのがあり、問題。

13 ライン使用時のトラブルとして一番多いのは友人関係のトラブル。そして個人情報流出のトラブル。「知らない人から性関係を求められた」という女子も多い。こちらも気をつけたいといけない。

14 ネット依存とリスク行動の関係では、依存状態にある子はそうでない子に比べて万引き・自傷行為・いじめ加害・いじめ被害がほぼ3倍近い。マスク着用はリスク行動ではないが、やはり2倍から3倍で、保護者としては気をつけた方がいい。

15 ネット依存と「自分の学校への肯定感」の関係では自分の学校が嫌いなほどネット依存が多い。学校の好きな子の5倍も多い。

16 ネット依存と「高校の授業への興味」の関係では、授業に興味を持っていないほどネット依存が多い。これは4倍。

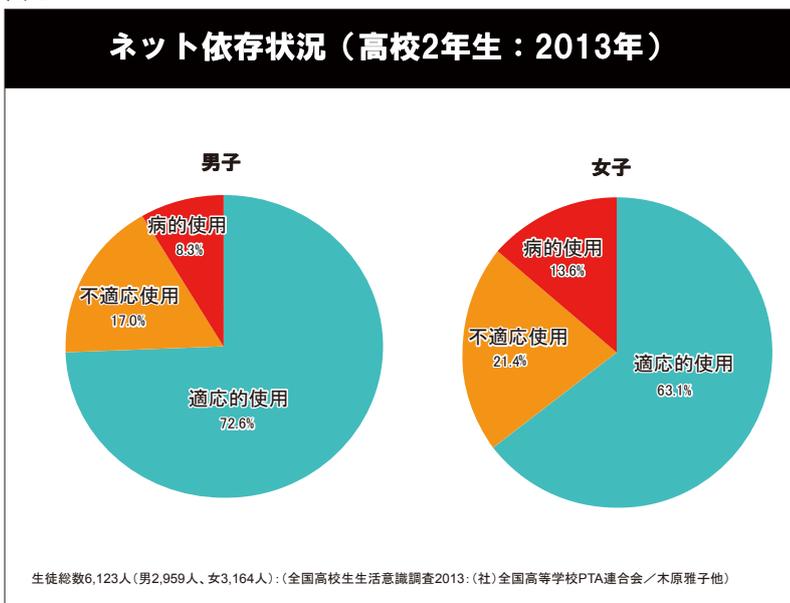
17 ネット依存と「先生の態度」の関係では、先生が気づいてくれないと感じるほど、ネット依存が多く、3倍。

18 ネット依存と「周囲の大人の態度」の関係では、将来を心配してくれる大人が周囲にいない子ほどネット依存が多い。

19 ネット依存と「目標達成意欲」の関係では、意欲が低いほどネット依存が多い。

20 ネット依存と「自尊心」の関係では、自己肯定感が低いほどネット依存が多い。自尊心

図3 ネット依存状況（高校2年生：2013年）



相川順子会長のつぶやき



最後に私見だが、現実の人間関係の中の学校の部分に関しては、将来の関

▼早寝早起き朝ごはん運動は、平成18年度から幼児や小学生を対象に展開された。今、この運動を中高生へも広げる動きがある。

▼高校生の生活習慣の乱れが指摘され、その原因の1つがネット依存により、十分な睡眠時間が確保できていないことだとされている。

▼遅くまでネットやゲームに縛られ、朝起きられず、朝食をとらず、学校に行っても集中できず、まさに悪循環だ。

▼今春、文科省、総務省を含む8省庁あわせて対策に取り組む「一斉行動」を展開している。スマホ購入時の対応や、使い方のルール決めは学校で指導されるものではなく、基本は家庭での話し合いで決めていかなければいけないと思う。

▼物に使われるのではなく賢く使いこなし、早寝早起きをし、しっかりと朝ごはんをとって1日をスタートさせていくように導く役目が保護者に求められているのではないだろうか。

に関して、毎年女子が低い。

21 自尊心についての比較では、マレーシア・台湾・アイルランドが70%前半、中国は80%近いのに日本は59%弱と低い。

そして自尊心・自己肯定感を持っていない子どもたちが学習意欲の低下、ネット依存やいじめにつながりやすいのではないかと考えられる。

(2月9日)

# 各委員会報告

## 健全育成委員会

委員長 外城戸昭一

今年度の活動を振り返りテーマごとにまとめた。

### ① 高校生生活実態調査

京都大学木原准教授のご協力のもとアンケートの集計を終えた。過去からの推移を比較する設問や他国の高校生との比較する設問、また現状に即した設問などいろいろな角度から分析した結果を十分に活用いただきたい。

### ② I L A Sテスト

安心協の委託を受けてテストに協力した。情報端末に関する親の意識について情報を得られた。高校生のスマホ使用の実態を踏まえて、どの様に子どもたちを守るかが今後の課題で、親自身が情報端末について研修会などを開催し情報を共有することが必要である。

### ③ 交通マナーの実態について

高校生の自転車マナーについては継続的な取り組みが必要で、子どもたちの大切な命を守る責務を改めて確認できた。1年の取り組みを次年度にしっかりと引き継いで欲しい。

## 進路対策委員会

委員長 鈴木 敏彦

### ① 第64回全国大会福井大会の研究発表企画について、講演と座談会の

二部構成とし、座談会コーディネータは小林海氏、パネリストは高校生2名、保護者2名、進路指導担当教員1名と決定した。人選が今後の課題。

② 同じく福井大会の研究発表の運営業務について今後詰めていく必要がある。また、今回の研究発表（平成27年度千葉大会）に向けて福井大会の成果を生かす

ために、現委員で福井大会参加者は事後に反省アンケートを提出する。また、今年の9月の委員会に講師の小林氏をお招きし、評価と総括を行う。

③ 平成25年度事業報告について実施事業の評価、反省、送り等の確認をした。

④ 平成26年度事業計画について確認した。特に「緊急雇用創出基金事業」の拡充に関する要望書の提出を継続することを確認した。

## 調査広報委員会

委員長 関根 英樹

第3回委員会では①会報76、77号の総括②78号の企画③今年度の事業全般の報告と次年度の事業計画などについて検討しました。

①会報はおおむね良くなっているが、好評の「輝く高校生」は、スポーツ以外の分野にも

対象を広げる。必要な情報を入れるためのスペースが限られるため、企画の取捨選択も必要などの意見が出た。

② 震災を伝え続ける方策を考える。輝く高校生の情報を広く求める。青春白書は今回はスペースがないために休み、次回以後を新体制に引き継ぐ。

③ リニューアルしたホームページのさらなる活用。全国大会での広報紙展示の扱い。震災を伝えるための会報の役割の再構築などを検討課題としたうえで、引き継ぎをしっかりと行うことを申し合わせた。

より良い会報発行のためには皆さまのご協力が何より必要です。さらなるご協力をお願い致します。

## 研修委員会

委員長 坂井 正人

第4回委員会では以下の事項について協議した。

① 第64回全国大会福井大会について

② 全国大会での広報紙展示について

③ 第65回全国大会岩手大会について

④ 大会ガイドラインについて

⑤ 平成25年度事業報告について

⑥ 平成26年度事業計画について

平成26年度4月からの消費税増税に伴う全国大会の参加費・案内方法・ガイドライン修正等について活発な議論が繰り広げられました。すべての事業に共通することですが、増税Ⅱ値上げではなく、十二分に内容を精査する必要があります。

同席された相川会長からは「今一度、全国大会の意義・目的を確認する必要があります。全国大会の目的は研修である。」との言葉をいただきました。福井大会、岩手大会ともに内容のある充実した大会になることを期待します。

## 賠償責任補償制度運営委員会

委員長 三浦 啓亨

賠償責任補償制度の在り方、要望等について各委員・保険会社の皆さんから意見を出して貰った。保険の有責・無責に関する問題に鑑み、学校管理下のとらえ方、どのような場合に支払われないのか等を討議した。また、保護者が任意に加入している『子ども総合保険』や『自転車総合保険』等との違いを理解して貰うための方策はどうすれば良いのか、スマートフォン等の普及により『ながら』行動が見受けられマナーアップ運動を強化する必要性があるなど活発な意見交換がなされた。最後にこの委員会の位置づけ、委員の選出の仕方について議論し、他の委員会と同様に各地区代表とすること、一致をみた。理事會にかけ承認を貰うこととし、実務が伴うので事務局が望ましいが、バランスを考え会長でも可と言うことになった。

# 全国高等学校PTA連合会賠償責任補償制度のお知らせ

あなたの学校も加入しませんか？全国高P連加盟高校の2校に1校が加入しています。

## 掛金

生徒1名あたり年間300円(保険料291円+制度維持費9円)

※補償開始日が平成25年4月1日の場合。補償期間中の加入については、月ごとに掛け金が減額となります。

## 補償期間

平成26年4月1日～平成27年3月31日

## 補償の範囲と支払済高額事故事例

＜生徒もしくはPTAに過失があった場合が対象となります＞



補償の範囲	補償限度額	平成24年度事故発生件数
1. 生徒の行為に起因する賠償責任 (生徒個人の賠償責任)	対人・対物合算 <sup>(注)</sup> <b>1事故1億円</b> 自己負担額1事故5千円 (注)対人事故・対物事故合算して1億円が限度となります。	1,474件
2. PTA活動の遂行に起因する賠償責任 (PTAの賠償責任)	対人 1名5千万円・1事故5億円	5件
	対物 1事故5千万円 自己負担額1事故1千円 (注)対人事故・対物事故それぞれに適用されます。	
	保管物 加害者1名 10万円 保険期間中 500万円 自己負担額1事故5千円	

年度	支払金額(千円)	事故内容
17年度	48,495	広場で打ち上げ花火をしている途中、携帯を見ている友人に向かって花火を発射、顔面に直撃し片目を失明させた。
19年度	<b>87,915</b>	無灯火の <b>自転車</b> で歩道を走行中、後ろから人に追突し転倒させ、脳挫傷により要介護状態となり、死亡させた。 <b>【過去最高支払金額】</b>
20年度	27,252	<b>自転車</b> で道路を横断しようとした際に、道路直進中の自転車と接触し、後遺障害を負わせた。
22年度	13,501	<b>自転車</b> で交差点を走行中、反対側から来た歩行者と正面衝突し、死亡させた。

☆上記のとおり自転車による人身事故が高額支払いになる傾向にあります。自転車事故に限らず国内における事故を24時間、幅広く補償しております。

詳しくは、「全国高P連賠償責任補償制度」手引き・チラシをご覧ください。  
(各学校へ1月下旬にお送りしています。)

### ●制度についてのお問い合わせ窓口

一般社団法人全国高等学校PTA連合会  
東京都千代田区神田佐久間町2-1 奥田ビル301号  
TEL. 03-5835-5711

### ●引受保険会社

引受幹事保険会社	東京海上日動火災保険株式会社 (担当：公務第二部 公務第一課)	TEL. 03-3515-4133
共同引受保険会社	AIU損害保険株式会社 三井住友海上火災保険株式会社 株式会社損害保険ジャパン	TEL. 03-5819-3416 TEL. 03-3259-4061 TEL. 03-3593-6451

一般社団法人 全国高等学校 PTA 連合会 後援  
**AIU 高校生国際交流プログラム**  
(参加費無料)

<http://www.highschooldiplomats.org/>

「育てたいのは、  
子どもたちの未来。」

私たちは、AIU 高校生国際交流プログラムを協賛しています。

**AIU 損害保険株式会社**  
tel: 03-3216-6611 [www.aiu.co.jp](http://www.aiu.co.jp)

**MS&AD 三井住友海上**

さあ来い! リスク。

リスクとトータルに戦う  
総合保険ブランド[GK]

三井住友海上火災保険株式会社  
〒104-8252  
東京都中央区新川 2-27-2  
[www.ms-ins.com](http://www.ms-ins.com)

**TOKIO MARINE NICHIDO**

地球の未来にできること。  
マングローブ「海の森」づくりは、  
その答えのひとつです。

東京海上日動火災保険株式会社  
東京都千代田区丸の内1-2-1  
〒100-8050  
<http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/>

日本の保険は、  
ジャパンが変える。

**損保ジャパン**

株式会社 損害保険ジャパン  
〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1  
TEL. 03(3349)3111  
ホームページアドレス <http://www.sompo-japan.co.jp>

# 被災地の高校生。ポ

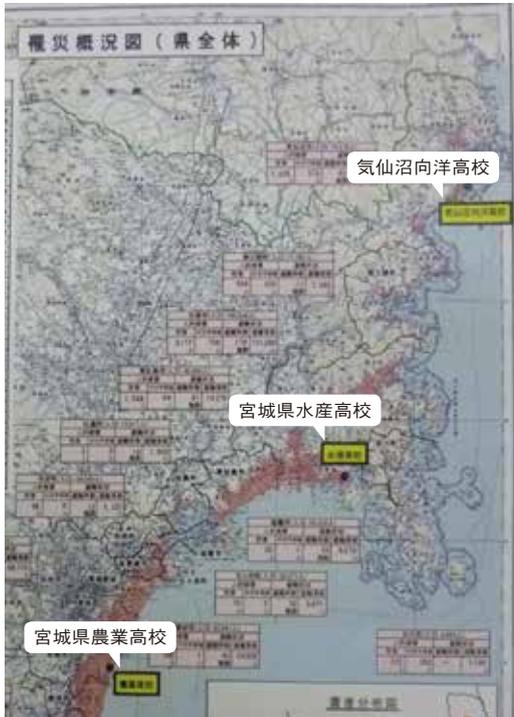
調査広報委員長 関根 英樹

## 宮城、岩手、福島

### 被災三県の現状

東日本大震災から3年が過ぎ、一歩ずつ着実に復興は進む。しかし、千年に一度の大地震による津波被害や、誰も経験のない原発事故の影響で被災地の高校生たちは、まだまだ不自由な生活を強いられている。現状を知ること、困難の中でも明日に向かって前向きに歩む高校生を、全国の父母と教師はしっかりと手を結んで応援し続ける必要がある。

宮城県に本社のある河北新報の調べでは、小中学校も含めると3月現在で、岩手、宮城、福島3県の公立学校のうち94校が仮設校舎で授業を行っており、約1万7300人の児童、生徒が通っているという。仮設校舎は、プレハブや他校の空



▼震災当日、津波に襲われる気仙沼向洋高校



▼津波で破壊された気仙沼向洋高校の校舎（半年後）



▼現在、生徒が学ぶ気仙沼向洋高校の仮設校舎



き教室、廃校の校舎などを使用していため、本来の校舎のように教育環境が整っていない。早急な対策が求められている。このうち、宮城県の高校では気仙沼向洋、宮城県農業、石巻市立女子商業の3校が仮設校舎のままだという。小中学校は26校を数え、合わせて29校になるが、このうち27校は4年後までに統合か校舎再建が計画されている。

**宮城県の高校の被害状況**  
 今回は、津波によって大きな被害を受けた宮城県の専門高校を中心に紹介する。宮城県の県立学

校は16校で合わせて17校が仮設校舎に入っているが、高田高を含め14校は新校舎建設が進んでいる。一方、原発事故が起きた福島県だけは特殊事情が続く。高校を含む48校が仮設校舎に入っているが、避難区域の36校は、避難先の学校に通うしかない。高校5校は今年度で入学者募集停止が決まっている。本校を復活させる兆しもみえないまだまだ。

校は震災で97校中91校が何らかの施設被害を受けた。被害総額は279億円と推定された。当時の高校生及び教職員の死亡・行方不明者の人的被害は94人を数えている。校舎が壊滅的な被害を受けた気仙沼向洋高（気仙沼市）、宮城県農業高（名取市）、宮城県水産高（石巻市）は仮設校舎での学校生活を余義なくされた。これらの高校の当時の状況と現況を紹介する。

【気仙沼向洋高】地震発生時、校舎内には約170人の生徒がいた。海岸から500メートルの位置にある校舎は、津波が4階床上まで浸水した。体育館や実習棟は流出し、校舎施設は壊滅的被害を受けた。近隣の家屋や建物も流出し、学校のある階上地区は1746戸が全壊となった。

た。生徒は全員約2キロ先の避難所に逃げたが、約20人の教職員が校舎に取り残され、後に救出される。震災後の新年度は5月9日から始まるが、近隣の3校に学科ごとに分かれてのスタートとなった。半年後の11月に、やっと気仙沼向洋高第二運動場に仮設校舎を建て一つの学校としての活動を再開した。その後、今でも仮設校舎での生活が続いている。

【宮城県農業高】津波が校舎2階床上まで浸水し、周囲の農場や実習施設を含め約32ヘクタールある敷地全てが壊滅的被害を受けた。津波の痕跡調査では3・4メートルの津波に襲われたとみられている。発生当日は、浸水で交通網が遮断され、寄宿舎の生徒や教職員が校舎に取り残され

た。農場は汚泥や塩害のため復旧困難となった。現在は宮城県農業・園芸総合研究所にある農業大学校のグラウンドに設置された仮設校舎で授業を行っている。計画では平成29年度末の完成を目指して、名取市内西部に新校舎建設を進めている。

【宮城県水産高】津波で校舎1階が水没し、ほとんどが使用不能となった。卒業生や在校生にも犠牲者が出た。さらに地震で地盤が著しく沈下し、大潮や大雨の際には校舎一階まで浸水するようになる。このため、市内内陸部の石巻北高の敷地内に仮設校舎を設けて授業を行った。（24年11月に元の校舎に戻った。）



コンクールで見事な踊りを披露する二山君

シリーズ視点  
**輝く高校生！**  
 世界に羽ばたけ！

**第5** 回目は世界的バレエダンサーを目指す若手の登竜門として知られる第42回ローザンヌ国際バレエコンクールで優勝し、日本中の注目を集めている長野県の松本第一高校3年の二山治雄（にやま・はるお）君（17）とご両親の正治さん（60）、晶子さん（56）です。

スポーツ、芸術、学業さまざまな分野で世界に羽ばたく高校生がいます。輝く高校生。その活躍と保護者の思いを紹介するコーナーです。（調査広報委員会）

◆二山治雄（にやま・はるお）長野県松本市出身。4人姉弟（姉3人）の末っ子。6歳からバレエを始め、小学6年の時に長野市に本部のあるバレエ教室にも通い

始めて、本格的に研鑽を積む。中学で東京新聞コンクール2位入賞。松本第一高校進学後、高校2年でジャパングランプリ総合入賞1位となる。その後、スペインで初めて海外レッスンを経験。帰国後のユースアメリカグランプリ日本予選で1位、NBAコンクール高校男性の部1位などに輝く。趣味は菓子作りで、小さい頃から姉たちと菓子作りを楽しんでいる。

お母さんへ  
 インタビュー

ローザンヌコンクールはどちらでご覧になりましたか。

晶子さん 日本にいて、ネットで毎日、息子の姿を探しながら審査レッスンの様子を見ていました。最終の決勝戦は日本時間では午後11時（現地時間午後3時）からで、夜中までネット観戦を続けました。

優勝したときの気持ちは。

晶子さん 最後に名前が呼ばれたときは耳を疑いました。息子がステー

ジの中央に出てきた姿を見て体が震えました。インタビューを受け、「先生を始め両親や支えてくれた多くの方に感謝します」と答えたときは涙があふれました。本当に多くの方に支えられてこまめでやってこられたのだと思います。

小さい頃はどんなお子さんでしたか。

晶子さん 3人の姉たちに囲まれて育ったせいかわかりませんが、おしゃべりで世話好きな子でした。運動神経は抜群で、足は速く、竹馬も一番高いところでききました。体も驚くほど柔らかかったです。小学校1年生の4月に女の子たちが踊っているバレエを見て、「僕、やりたい」と言いだし、サッカーや野球には目もくれず、女の子の中で一人黙々とレッスンしていました。

お子さんを育てる上で大切にしていることは。

晶子さん 個性を尊重しました。男の子だからといって男の子らしいこと



帰国後、姉たちと優勝を喜び合う二山君（左から2人目）

を要望するのではなく、その子の思いを受け止めることが大事だと思えます。苦しみや悲しみを乗り越え、感激や感動をたくさん経験して感性を磨くことも大切です。

今後への思いは。

晶子さん 世界で踊ることとはこれから想像もつかないような困難が待ち受けていると思いますが、自分の魅力を引き出し、感動を与えられるダンサーになつてほしいと思います。



小さい頃からカメラを向けるとバレエポーズを取っていた二山君



東尋坊

# 「教育と考福」

## 第64回全国高等学校PTA連合会大会

# 福井大会のご案内



三方五湖



越前漆器のなかに、福井県の名物・名産の恐竜、めがね、水仙、越前ガニ、ふぐを詰めました。福井ってこんなに素敵だと思ってもらえるよう高校生がデザインしました。

私たちが取り巻く環境が著しく変化している今日、大人だけの時代もなくなり、子どもたちが自ら考え、行動し、成長していくべき時代である。私たちは、子どもたちを育て、成長させる責任がある。未来の社会を担っていく子どもたちには、自ら考え、行動し、成長していく力をつけてほしい。福井大会では、「教育と考福」をテーマに掲げ、子どもたちの「しあわせ」について考えます。学校・家庭・地域・社会がそれぞれの役割を見つめ直し、共に学び連携して、PTA活動の更なる深化を目指す。大会とします。

### 大会趣旨

第64回全国高等学校PTA連合会大会が平成26年8月21日(木)・22日(金)・23日(土)の三日間サンドーム福井をメイン会場に開催されます。「教育と考福」をメインテーマ、「未来に引き継ぐ知と恵み」をサブテーマとし、現在、実行委員会の皆様をお迎えすべく準備を積み重ねているところです。

## ご参加お待ちしております！

### 8月21日(木)大会前日

時間	行事	会場
11:30~12:30	研修委員会打合せ	福井市地域交流プラザ501
13:30~15:00	分科会別会議	各分科会会場
15:00~16:00	全国事務局長会議	福井市地域交流プラザ601BC
16:00~17:00	大会運営会議	福井県民ホール
17:30~19:30	歓迎レセプション	ユアーズホテルフクイ



恐竜博物館

### 8月22日(金)大会第1日 開会式、全体会

時間	行事	会場
8:00~	受付	(主) サンドーム福井
9:00~9:30	アトラクション	(副) 福井フェニックスプラザ
9:40~10:30	開会式	(副) 敦賀市民文化センター
10:40~11:50	基調講演	

### 8月22日(金)大会第1日 分科会

時間	行事	会場
13:30~14:00	受付	
14:00~16:30	全国高P連研究発表	サンドーム福井
	第1分科会	ハーモニーホールふくい
	第2分科会	越前市文化センター
	第3分科会	福井フェニックスプラザ
	第4分科会	敦賀きらめきみなと館
	特別第1分科会	鯖江市文化センター
	特別第2分科会	敦賀市民文化センター

### 8月23日(土)大会第2日 全体会、閉会式

時間	行事	会場
8:00~	受付	サンドーム福井
9:00~9:50	アトラクション	
10:00~11:10	記念講演	
11:20~12:00	閉会式	

福井大会では「教育と考福」をテーマに掲げ、子どもたちの「しあわせ」について考えます。学校・家庭・地域・社会がそれぞれの役割を見つめ直し、共に学び連携して、PTA活動の更なる深化を目指す。大会とします。

生徒、保護者、先生が手を取り合  
い未来に向かって……  
(高校生の作品です。)

